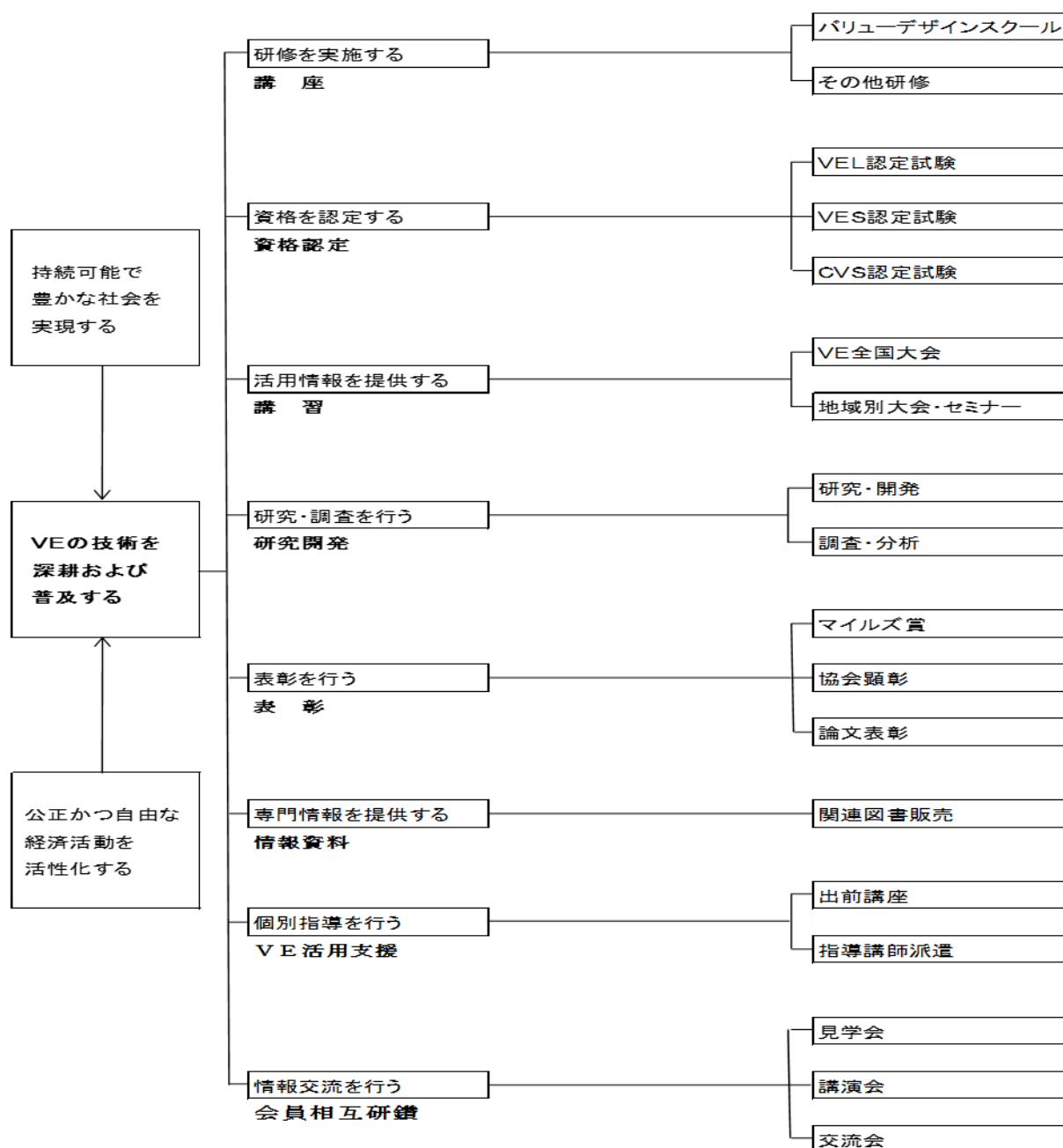


公益社団法人日本バリュー・エンジニアリング協会

# 2020年度 事業計画書

( 2020年 4月 1日から2021年 3月31日まで )

2020年度も引き続き、(1) 持続可能で豊かな社会の実現、(2) 公正かつ自由な経済活動の活性化、(3) VE技術の深耕・普及等を目的に、次の各事業を積極的に展開して参ります。



# 1. 講座

ここでは、次世代のVEリーダー育成を目的に、基礎知識の講義と活用手順の演習をあらゆる業種・職種の人や学生を対象に行うVE初級コースや、実務での活用・実践力を備えたVE専門家の育成を目的に、開発設計VE等の講義・演習をVEリーダー（VEL）有資格者又はVE初級コースと同等の内容を学んだ人を対象に行うVE中級コース等がある「バリューデザインスクール」、VEの実践を担える人材の育成を目的に、VEの概要をまず知りたいという人やVEの導入・実践を考えている人に対してその人達が職場で実際に抱えている問題や課題でVEのワークショップを行う「VE塾」等を開催する。

※ 以下講座の講師は、CVS（Certified Value Specialist）及びVEスペシャリスト（VES）の有資格者に委嘱することを原則とする。

また、以下講座については、新型コロナウイルスの感染拡大に伴って緊急事態宣言が発令されるなど公開型講座の受講が難しくなっている状況を受け、既存・新規のテーマを問わずWebツールを使ったウェビナー（Webセミナー）型での早期開催も目指す。

## 1) バリューデザインスクールの開催

### (1) VE初級コース

VEの予備知識がない誰もが基礎から学べる講座として、「製品改善ワークショップ」を3回、「VEL受験対策講座」を2回開催する。

※ 上記2講座は、受講・修了によってVEL認定試験の受験要件を満たせるものとする。

### (2) VE中級コース

VE初級コース修了者又はVEリーダー（VEL）有資格者、VES有資格者を主な対象に、次の12講座を開催する。

講座名	開催日	会場
機能の整理法	9月 1日	日本VE協会
VEで活用するアイデア発想	9月 9日	
VEプロジェクトの進め方	9月28日	
VEブラッシュアップ（基本編）	10月 8日	
VEブラッシュアップ（短文記述編）	10月 9日	
VEブラッシュアップ（論述編）	10月16日	
伝える・伝わるプレゼンテーション	12月15日	
開発設計のVE	1月21日～21日	
企画段階のVE	2月10日	
実行力を高める調達・購買	2月19日	
ソフトVEの進め方	3月 4日～ 5日	
VEで活用するTRIZ	3月10日	

### (3) VE上級コース

米国VE協会のモジュールIIセミナーに相当し、CVS認定試験の受験要件を満たせるものとして、次の4講座を開催する。

講座名	開催日	会場
VEチームを価値創造集団へと導くファシリテーション力	7月 1日	日本VE協会
経営者を納得させるVE提案書の書き方	7月14日	
VEの原点的思考（機能分析中心）	8月18日	
VEを組織的に適用するためのマネジメント	9月 8日	

### (4) DC (Design & Cost) コース

- ① VES及びCVS更新要件上のポイントとなるものとして次の7講座のほか、必要に応じて随時開催する。

講座名	開催日	会場
企画から生産までの原価企画実務上の留意点（仮題）	10月 1日	日本VE協会
コストテーブル作成・活用の体験	10月15日	
開発設計業務でのコストエンジニアリング	11月17日	
DFA（Design For Assembly）体験	12月11日	
製品設計に基づくプレス型費削減（仮題）	1月26日	
企画、構想段階の機能と品質の決め方（仮題）	2月 2日	
UD（ユニバーサルデザイン）の体験（仮題）	2月16日	

- ② 経営者層にVE及びその関連領域の情報を提供し、自組織でのVE活用を促進してもらえるようにするため、企業の経営者及び経営幹部や学識経験者、コンサルタント等の講演を主な内容とする「経営者フォーラム」を、VES及びCVS更新要件上のポイントとなる講演会として、理事会と同じ日に3回開催する。

## 2) その他研修会等の開催

### (1) 「VEの基礎」通信講座の開講

地理的・時間的な都合等で通学講座の受講が難しい人にも、VEの基礎を学び、VEL資格認定試験の受験資格を得られる機会を設ける。

### (2) 西日本支部（中四国地区）でのVE塾の開講

VE塾という名称のVEワークショップ・セミナーを広島地区で開講し、その成果を発表会で公表する。

### (3) 西日本支部（東海地区）でのVE技術情報交流会の開催

VEやVE関連技法、話題の改善技法等をテーマに演習（ワークショップ）とディスカッションを行い、参加企業での導入・展開を支援する。

#### (4) CVSによるVE技術者育成支援

日本国内のCVS有資格者で構成されている「CVSフォーラム」において、VE技術者の育成を支援するための活動やVEに関する実務的研究及び調査・分析を行う。

#### (5) 公共機関でのVE技術者育成支援

行政機関等で構成されている「全国VE活動推進研究会」を支援すること等で、公共機関でのVE技術者育成を支援する。

#### (6) 教育機関におけるVE導入促進と普及

ESD (Education for Sustainable Development) やPBL (Project Based Learning)、AL (Active Learning) へのVE導入促進を図る。

## 2. 資格認定

ここでは、企業・団体等の組織でVE活動のリーダーを務めるために必要な基礎知識を習得していると認められた人に授与される「VEL」資格、責任者・担当者としてVE活動の実施・推進の任に就くVE専門家として備えるべき諸知識や技術を習得していると認められた人に授与される「VES」資格、VEに関する知識・技能・経験が極めて高い水準に達していると認められた人に授与される「CVS」資格の認定を行う。

また、有資格者を対象とした継続教育のための冊子「バリュー・エンジニアリング」誌（電子版）の無料配付も行う。

#### 1) 資格認定制度の整備・体系化

米国VE協会が2020年の完了を予定している“CVS資格認定制度改定”について、情報を収集し、米国での改定後の状況を踏まえてCVS要件改定準備を進める。

#### 2) 資格認定試験の実施

第49回 VEL 認定試験	4月18日～ 7月31日【CBT方式】
第50回 VEL 認定試験	9月 1日～ 2月28日【 ” 】
第23回 VES 認定試験	12月 5日
第41回 CVS 認定試験	10月17日

※ 上記のほか、中国、ベトナム、メキシコ等でVEL認定試験を実施し、その他海外での同試験実施のための情報収集を行う。

#### 3) VEL有資格者の継続教育

VEL有資格者のスキルアップに役立つ内容のセミナーを、必要に応じて随時開催する。

#### 4) 「バリュー・エンジニアリング」誌の編集・発行

VEL（A登録者）、VES、CVS有資格者のVE技術水準の維持・向上を主目的に、VE活動事例やVEに関する研究成果等を収載した「バリュー・エンジニアリング」誌（電子版及び冊子版）を編集し、年4回発行する。

#### 5) 更新登録の実施

VEL、VES、CVS登録者の更新登録（VEL、VESは終身登録を含む）を行う。

### 3. 講習

ここでは、VE活動推進の参考になるノウハウやヒント、さまざまな関連情報の提供を目的に、VEに興味がある人やVEL等の有資格者、学生等を対象とした「VE全国大会」、VE関西大会等の「地域VE大会」、及びVE京滋セミナー等の「VEセミナー」を開催する。

#### 1) 「第53回VE全国大会」の開催

会期	10月27日～28日【2日間】
会場	アルカディア市ヶ谷

#### 2) 地域VE大会の開催（西日本支部 関西地区）

大会名	開催日	開催地
第51回 VE関西大会	2月18日	大阪府大阪市

#### 3) VEセミナーの開催（西日本支部 関西地区）

セミナー名	開催日	開催地
VE京滋セミナー	11月27日	京都府京都市

### 4. 研究開発

ここでは、VEの適用領域拡大を目的に、学識経験者及び企業人が不便益という新しい視点に着目することで革新的なVE/VM領域の確立を目指す不便益&VE研究会等の「開発研究会」、実務で展開するためにVEの導入や水平展開を模索している人がVE推進や実践上の課題等について研究を行うVE推進部会等の「機能別部会」、2時間VE手法のさらなる洗練化や活用局面拡大等を目的に、ゼネコンや設計コンサルタントなど建設関連分野のVE入門者や推進実務担当者が具体的なテーマでの演習等を通じて同手法についての研究等を行う中部建設VE研究会等の「専門研究会」を設置する。

## 1) 「バリューデザイン・ラボ」での先端的・実務的研究及び調査等の積極推進

- (1) 「不利益&VE研究会」を設置。不利益という新しい視点に着目して、使用機能でも魅力機能でもない第三の機能“不利益機能”を提唱し、不利益による価値創造、革新的なVE/VM領域の確立を目指す。
- (2) 米国VE協会が主催するVE国際大会、及びインドVE協会が主催する INVESTVE大会において(両大会とも Web 会議方式となる予定)、米国など海外諸国の研究動向についての情報を収集する。
- (3) 立命館大学大学院テクノロジー・マネジメント研究科の実習プログラムである、“理論と実践の習得”を目指し、インターンシップを発展させた「プラクティカム」における、主に中国企業での管理技術を活用した課題解決をテーマとした実践的研究に、提携関係のある上海VE協会とともに協力する。

## 2) 各支部での実務的研究の推進

### (1) 機能別部会での研究活動

東日本支部に 6 つの機能別部会を設置してVEに関する実務的な研究を進め、その成果を報告会又はレポート (VE資料) 等で広く公表する。

① マネジメント部会	② VE推進部会	③ マーケティング部会
④ R&D部会	⑤ ものづくり部会	⑥ 社会インフラ部会

### (2) 専門研究会での研究活動

東日本支部及び西日本支部(東海地区・関西地区)に専門研究会を設置してVEに関する実務的な研究を進め、その成果を発表会又はレポート (VE資料) 等で広く公表する。

東日本支部	① 若手VEリーダーのためのスキルアップ研究会
西日本支部(東海地区)	① 中部建設VE研究会
西日本支部(関西地区)	① つかいやすいTRIZ研究会 ② 経営革新を生み出す生き生きVE研究会 ③ VEツール研究会 ④ サービス領域でのVE適用方法研究会 ⑤ リーンシックスシグマとのシナジー研究会 ⑥ 原価企画の問題解決研究会

## 3) プロジェクト形式での研究・検討

### (1) 公共事業におけるVMの研究及び普及促進検討

「公共事業のVM研究会」において、公共事業の発注者がVEの段階別適用やVE活用のための人材育成及び組織作りについての研究を行うとともに、公共事業でのVE普及を促進するための施策検討や情報発信等を行う。

## (2) Sustainable Value Design の研究

超スマート社会を実現していく「Society 5.0」の実現や持続可能な開発目標（SDGs = Sustainable Development Goals）の達成に向け、これらの社会課題を解決するために、V Eの考え方をどのように応用していくかについての研究を行う。

# 5. 表彰

ここでは、資源の有効活用による持続可能な社会の実現に向けたV E活用促進の奨励を目的に、V E活動で顕著な成果を挙げている企業又は団体の部門又は事業部門等を対象とした「マイルズ賞」、経常的な活動展開への動機づけや規模の大小を問わず企業等におけるV E活動の促進・活性化を目的に、研究開発、普及促進及び本会諸活動で顕著な成果を挙げた人又はグループを対象とした「協会顕彰」、V E技術水準の向上とV E活動のさらなる活性化等を目的に、バリュー・エンジニアや公的機関、学生等を対象とした「V E実践論文」の審査及び表彰を行う。

### 1) 「マイルズ賞」の審査・授与

次の各賞について、応募のあった企業又はその事業部門、自治体など公共団体の審査をマイルズ賞規程にもとづいて行い、その結果授賞が決定したところの授賞式を「第53回V E全国大会」で行う。

- ① マイルズ賞
- ② マイルズ賞本賞
- ③ マイルズ賞特別賞

### 2) 協会顕彰の実施

次の各賞について、顕彰規程にもとづき、V Eの研究開発や普及促進等について功績を挙げた個人や団体等に「第53回V E全国大会」で授与する。

- ① 研究開発功績賞
- ② 普及功労賞
- ③ 協会賞（V E経営者賞、V E功労賞、V E国際功労賞、V E特別功績賞、V E学術功績賞、普及功労特別賞、V E活動優秀賞）

### 3) V E実践論文の審査・表彰

V E実践論文を「第53回V E全国大会」の開催にあたって募集。応募のあった論文の審査を「論文審査委員会」で行い、その結果入選となったものの表彰・発表を同大会で行う。

※ 学術的研究論文については、一般社団法人日本システムデザイン学会と連携し、査読・発表の機会を別に設ける予定。

## 6. 情報資料

### 1) 研究成果の資料化

「バリューデザイン・ラボ」での先端的・実務的研究及び調査や、各支部での実務的研究の成果をV E資料として纏め、公表する。

### 2) V Eテキスト・教材・関連資料等の発行・販売

「第53回V E全国大会」V E研究論文集・資料集、V E普及のための図書等を発行するほか、ワークシート、アイデア発想ラベル・機能定義カード、V E LバッジなどV E実施や推進のためのアイテムを販売する。

### 3) V Eテキスト・関連資料等の翻訳・発行

- (1) 講座テキストやV E資料等を英語、中国語、タイ語、スペイン語等に翻訳し、発行する。
- (2) 特に、中国語版については、上海V E協会の協力を得て、V E関連の資料図書も発行する。また、本会が発行しているV E資料、研究資料等の翻訳も進める。
- (3) 海外でのV E L受験者を増やすため、「V E L認定試験問題集」を英訳し、販売する。

### 4) V E関連書籍・資料・教材等の販売

V Eの学習及び研究、普及促進に資するため、V E関連専門図書を仕入れて販売する。

### 5) V E研究論文のネット販売

協会Web Site内に開設したV E論文検索・購入サイト「V E論文navi」で電子化した過去のV E研究論文を販売する。

## 7. VE活用支援

### 1) 日本国内における出前講座の実施及び指導講師の派遣

企業・団体等からの要請に応じて出前講座を実施、又は指導講師を派遣し、V Eの個別指導、コンサルティング等を行う。

### 2) 海外でのV E教育支援

- (1) 海外の人材教育支援の関係団体と連携し、現地の人材育成事業におけるV E関連の指導を積極的に支援する。
- (2) 上海V E協会が開催する中国でのV E研修等を支援する。
- (3) 北中米において Advanced Value Group 社が開催するV E研修（V E L受験資格要件を満たすもの）の実施等を支援する。



- (4) その他アジア諸国（ベトナム、マレーシア、フィリピン、タイ等）を中心に現地提携先を検討し、VEの活用支援事業を海外に展開する。
- (5) 在日米軍やフィリピン国家経済開発庁等の土木・公共事業の設計VEプロジェクトにCVSのVE専門家を派遣し、ワークショップの指導に関わる。

### 3) VEワークショップ・セミナー（48時間以上）の認定

企業や団体が主催するVEワークショップ・セミナー（48時間以上）のうち申請のあったものについて審査・認定を行い、その修了者がVES認定試験の受験要件であるVE学習経歴を満たせるようにする。

## 8. 会員相互研鑽

### 1) 見学会・講演会等の開催

各支部において各種の見学会・講演会等を活動計画にもとづいて開催し、VEに関する情報交流を行う。

## 9. 広報活動

### 1) メールマガジンによる情報発信

メールマガジン「VE情報メール」を毎月1回発行し、VEや本会に関する最新情報を積極的に発信する。また、主催する大会・セミナー等の案内や募集などPR活動にも積極的に利用する。

### 2) 協会Web Site等による情報発信

協会Web Siteをインターネット上で運営する。情報の定期更新を行い、VEや本会に関する最新情報発信のツールとして有効に活用する。また、ブログやFacebookと連携させることで、発信力の強化を図る。

### 3) 国土交通省 i-Construction 推進コンソーシアムへの参加

国や自治体、企業、研究機関、NPO等で構成されるi-Construction推進コンソーシアムに参加し、情報を収集するとともにVE関連情報の発信を図る。

### 4) インフラメンテナンス国民会議への参加

国や自治体、企業、研究機関、NPO等で構成されるインフラメンテナンス国民会議に参加し、情報を収集するとともにVE関連情報の発信を図る。

### 5) 他団体との連携による広報

連携に賛同いただける団体と相互にイベントを後援し合ったり、PRに協力、参加費の割引を行ったりする等して、VEの普及促進を図る。

## 10. 会 議

### 1) 定時総会の開催

第10期 定時総会	6月19日
-----------	-------

※ 上記のほか、必要な場合には臨時に開催する。

### 2) 理事会の開催

第31回	第32回	第33回	第34回
5月21日	6月19日	9月 2日	3月18日

※ 上記のほか、必要な場合には臨時に開催する。

### 3) 「本部企画委員会」の開催

各支部の支部長、各委員会の委員長、事務局長で構成し、年度計画の調整や事業推進における意思疎通を図るための会議を年度内に1回開催する。

以上